

令和5年度事業運営方針

(赤字は追加・変更点)

1 良質な医療の提供

(1) 5疾病6事業を中心とした医療機能の充実・強化

○5疾病

・がん診療のTQM検討開始(診療科横断的プロジェクトチーム編成と各種データ収集からスタート)
・**がん診療拠点病院の要件の厳格化に伴う体制整備(新たな指定要件を踏まえた地域がん診療病院とのグループ化や院内体制の整備)**

・脳卒中(SCUを中心にICU、HCU,ERの運用工夫)

・急性心筋梗塞

・糖尿病

・精神疾患

○6事業

・救急医療、災害医療、へき地医療

・周産期医療

・小児医療

・感染対策←**新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取り組み**と結核モデル病床設置とその感染症病床としての利用

○MRI3.0T導入、PET-CT更新予定

○手術ロボット導入の検討開始…多職種で構成するWGIによる検討開始

○術後回復強化策の推進

・鎮痛、リハビリテーション、栄養の連携強化による回復促進(APS+NST)
・バスの再構築

○臨床研究・治験支援体制整備

(2) 多職種間の協働等によるチーム医療の推進

○目指す機能を果たすために本当に必要な多職種協働のあり方見直し
・”仲良しグループ”ではない、最大の成果を出すためのチーム構築

(3) 患者・家族の思いに沿う体制強化

○病院全体としての臨床倫理カンファランス活動の推進

・身体抑制回避の具体的手順の検討

○メディエーションスキルの習得と普及

○音楽療法導入推進

○ACPの推進

(4) 安全・安心な医療の提供

○医療安全対策の推進・強化

・ポリファーマシー対策の推進(薬剤科でのパターン分析)

・心理的安全性確保による情報共有促進

○感染管理対策の強化

区分	<h2 style="text-align: center;">令和5年度事業運営方針</h2> <h3 style="text-align: center;">(赤字は追加・変更点)</h3>
	<ul style="list-style-type: none"> ・新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取り組み ○クリニカルパスを活用した医療の質の向上 ・アウトカム志向パスへの移行 ・チーム医療の推進(多職種での目標・プロセスの可視化・共有化) ・インフォームドコンセントの充実(患者参加型医療の提供) ・医療ケアの標準化 (5) 地域連携の強化による高度急性期病院としての機能特化 <ul style="list-style-type: none"> ○入退院支援センターの機能拡張と強化 ○ICT活用による県立病院間、あるいは地域医療機関との連携の効率化 <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインで可能な業務の拡大と効率的運用の推進 ○病・病連携の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・入院患者の早期転院戦略(肺炎パスや尿路感染症パス等の普及、患者に納得して退院してもらえる仕組み作り) ○病・診連携の推進、医科・歯科連携の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・再来患者数の適正化 ・逆紹介戦略、「病院」から「かかりつけ医」への流れを強化 ○地域包括ケアシステムへの参画 <ul style="list-style-type: none"> ・介護機関との情報交換強化 ○地域住民の自己健康管理意識促進(ホームページからの発信) ○病院ホームページ等の活用による有効な情報提供 (6) 新病院構想の検討開始 (7) 病院機能評価の更新受審による医療の質の向上
	<h2>2 次世代医療人の育成</h2> <ul style="list-style-type: none"> (1) 医師確保に向けた取り組み <ul style="list-style-type: none"> ○臨床研修医の確保及び専攻医獲得戦略の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・フルマッチを目指したリクルート活動の推進 ・専門分野に専念し十分な専門性熟達を得られる体制整備 ○ベテラン医師の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・集中治療専門医、救急専門医、病院総合診療医の確保 ・各領域専門性を持ったシニア医師が総合診療医となるキャリアモデル構築(ジェネラリストとして院内で活躍し、更に地域病院でも活躍してらえるような枠組み作り) (2) 各職域における計画的な人材育成推進 <ul style="list-style-type: none"> ○各職域のキャリアデザインによる専門資格職員の計画的育成と支援 ○特定行為に係る看護師の計画的育成支援 ○各職域スペシャリストの育成支援 <ul style="list-style-type: none"> ・技術の習得・技能の向上・資格の取得支援

区分	<h2 style="text-align: center;">令和5年度事業運営方針</h2> <h3 style="text-align: center;">(赤字は追加・変更点)</h3>
	<ul style="list-style-type: none"> ○OBLSなど職員全体に対する教育の強化 (3)各分野における先駆的取組施設との交流推進 (4)アカデミックセンター構想の検討
<h3>3 地域医療への貢献</h3>	<ul style="list-style-type: none"> (1)医師派遣依頼への対応 <ul style="list-style-type: none"> ○県立病院間、へき地医療機関などへの戦略的支援 <ul style="list-style-type: none"> ・医師の働き方改革、救命救急センター等の算定要件にも対応可能な支援体制の構築 (2)診療機器の有効利用促進 <ul style="list-style-type: none"> ○画像提供、遠隔病理、機器共同利用の促進(専門外来のオンライン診療) (3)地域医療連携協議会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ○ニーズの抽出と情報提供
<h3>4 救急医療の充実</h3>	<ul style="list-style-type: none"> (1)救命救急センターの体制強化と組織作り <ul style="list-style-type: none"> ○救急医療科の組織体制確立とER病棟の運用確立 (2)総合診療科と救急科との連携強化による救急体制の最適化 (3)救急医療に関する教育活動と専門医の確保・育成
<h3>5 災害医療の体制整備</h3>	<ul style="list-style-type: none"> (1)DMAT隊員の計画的養成推進 (2)BCP(事業継続計画)を活用した取り組み (3)多数の傷病者を想定した災害訓練等の実施 (4)CBRNE災害への準備
<h3>6 健全で効率的な病院運営</h3>	<ul style="list-style-type: none"> (1)収益の確保と費用の縮減 <ul style="list-style-type: none"> ○DPC特定病院群の維持と係数の向上努力の継続 <ul style="list-style-type: none"> ・新規・上位施設基準の早期取得の促進 ・次期診療報酬改定に向けた情報収集と事前準備 ○資産の有効活用等による収益の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・不用品の廃棄推進によるスペース創出とスペースの有効活用 ○コスト意識定着のための情報提供 <ul style="list-style-type: none"> ・経営指標に特化した情報のまとめと配信 ・病院経営のまめ知識 (2)院内の情報管理体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ○院内情報伝達手段の効率化 ○電子カルテ更新に向けた準備 <ul style="list-style-type: none"> ・効率的な診療を可能にする電子カルテの運用体制の根本的見直し ○診療録監査の継続

令和5年度事業運営方針

(赤字は追加・変更点)

7 魅力ある職場環境整備

(1) 職員が働きたくなる環境整備推進

○ハラスメント対策の推進

・アンガーマネジメントの推進

○患者・家族からの院内暴力対策

○職員のやりがい発見支援(自己成長感と他者への貢献)

・成果に照準/承認の文化醸成

○定年後人材、障がい者、ボランティアが働きたくなる環境整備

○職員のスキルアップに対する支援(時間と資金)

○院内空きスペースの有効活用

(2) 働き方改革に向けた取組の推進

○院内業務効率化の推進(タスクシフト・タスクシェア等の推進)

・外来患者の完全予約制検討

・グループ診療等による適切な休養確保

・外来診療室の流動的運用の検討

・各種会議等の簡素化

(3) 健康管理体制の充実

○産業医及び臨床心理士等が一体となったメンタルケアの推進継続

・スタッフのメンタル回復、強化の仕組み構築

(4) 職員の業務負担軽減推進

○各部門における業務の効率化、タスクシフト・タスクシェアの推進

○医療クラーク室の体制整備推進

・クラークの計画的な人事異動の実施方法検討と自己キャリアパスの確認

・クラーク室の組織文化、企業理念の制定